こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

アーカイブ: 2008年7月

2008/07/26

15:28:23, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 892

詩の歳時記ー200

百日草百日の花怠らず　　遠藤梧逸

定められたいのちの時間
神々の配慮
ただ無口に生きてゆきましょう
星の微細な欠片ほどのわたくしが
ただいとほしい

＊　＊　＊

この自己流の歳時記は昨年八月から始めました。一年間続けることを目標にして、わたくしは花や草木や風景などに出会いながら、その気分に合わせて毎日では無理ですから、目標を二百句と定めた次第です。とりあえず七月末をもって、その目標は達成できました。しかし最終に近づいたころには「三六五句を目指していらっしゃいますか？」というご質問を受けまして深く反省いたしました。

暦に合わせて、きちんと用意してから始めるべきでした。そうでなければ「俳句」に対して失礼な行為ではなかったかと。。。さて、これをきちんと俳句暦にやり直すには、さらに最低一年はかかるでしょう。目下疲れ果てた弱い脳みそで考慮中です。来年の元旦までにきめることと致しませう。長らくお目汚しにお付合い下さいました方々に深くお礼申し上げま

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blo
吸殻山383番地の家に戻る。
中央1番地に戻る。

- 最新 (キャッシュ)
- 最新 (キャッシュされない)

2008年7月

日	月	火	水	木
		1	2	3
6	7	8	9	10
13	14	15	16	17
20	21	22	23	24
27	28	29	30	31

<< <

- 最近のコメント

Heavy Hitters

- Test (20 visits)
- Walking1日目。 (20 visits
- 詩の歳時記ー56 (20 visits
- 引用文ー23・あきらめ
- 詩の歳時記ー117 (19 visi
- 詩の歳時記ー82 (19 visits
- 花守 (19 visits)
- かぼちゃな一日 (19 visits
- 詩の歳時記ー305　「夕 visits)
- 詩の歳時記ー274　「あ visits)
- 詩の歳時記ー253　「桃 visits)
- 詩の歳時記ー123　「桜

検索

全ての語
いずれかの語

す。

さてさて、まずは夏休みです。二十九日より不在です。

6 コメント • 編集

2008/07/25

02:41:19, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 712

詩の歳時記ー199

(Photo by K/H)

わたしくに浮力ありてふ蓮の花　　高田昭子

夏の午後
まどろみのなかで
花にうまれた夢をみた
目覚めれば
水輪のような時間に包囲される

• 編集

2008/07/23

14:15:53, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 715

詩の歳時記ー198

フレーズ

検索

カテゴリ

- All
- 百人百詩 (100)
- 詩の歳時記 (365)
- 詩日記 (20)
- My　Haiku (49)
- Walking (13)
- 引用文 (31)
- 日記 (163)

選択

アーカイブ

- 2015年11月 (1)
- 2015年7月 (1)
- 2015年5月 (2)
- 2015年3月 (3)
- 2015年2月 (2)
- 2015年1月 (3)
- 2014年12月 (2)
- 2014年11月 (2)
- 2014年10月 (3)
- 2014年9月 (2)
- 2014年8月 (2)
- 2014年7月 (2)
- 続き...

いろいろ

- 管理
- プロフィール (admin)
- ログアウト (admin)

このブログの配信

- RSS 0.92: 投稿, コメン
- RSS 1.0: 投稿, コメント
- RSS 2.0: 投稿, コメント

咲き満ちて天のかんざし百日紅　　阿部みどり女

天の神様が
かんざしをお望みならば
百日の紅を生きませう
なめらかな木肌を
風が流れてゆく日々に

• 編集

2008/07/21

21:24:27, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 723

詩の歳時記ー197

■ Atom: 投稿, コメント
What is RSS?

powered by
b2evolution

じゃんけんで負けて蛍に生まれたの 池田澄子

ぐう　ちょき　ぱあ
わずかな選択肢から
わたくしは幸福な蛍に生まれました
野川のほとり　猫につかまって
「にがい。」と言われるまでの運命でしたが

• 編集

2008/07/17

18:39:40, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 730

詩の歳時記ー196

山桃の日陰と知らで通りけり 前田普羅

夏の午後
木陰づたいに歩いてゆく
うつむいて歩く癖が直らない
山桃の赤い実が落ちていた
見上げた樹の向こうにまぶしい空

• 編集

2008/07/14

16:54:35, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 638

詩の歳時記ー195

ひと一人ゐて緑陰の入りがたき 飯島晴子

こちらに背を向けて
木陰のベンチにすわるひと
わたくしは初めの言葉がさがせない
耳には「悲歌」
風の音

• 編集

2008/07/12

17:19:19, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 652

詩の歳時記ー194

(Photo by Denden)

朝の虹消えてート雨半夏生 酒井黙禅

生まれる時が早すぎたのか

それとも……
花ともいえず
葉ともいえず
ひっそりと雨後に揺れるもの

• 編集

2008/07/11

01:23:46, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 635

詩の歳時記ー193

梅雨晴れや黄瀬戸にしみる信濃酒　　高田昭子

雨の音がやむ夜
黄瀬戸の片口に
揺れる銀色の酒
呑みほしてみようか
一編の詩に幸あれと

• 編集

2008/07/09

22:35:02, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 655

詩の歳時記ー192

学ならずもんじゃ焼いてる梅雨の路地　　小沢信男

一人ではなにもできないのね
二人になれば　二つの自我
どうにもならない
梅雨の路地
行き暮れる

• 編集

2008/07/07

22:23:13, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 688

詩の歳時記ー191

海原に銀漢の尾の触れてゐむ 西村和子

かつて詩人は書いた
虹の足が降りたった地と……
海は気づいているだろうか
銀漢の尾が潮に濡れていることを
溺れる星たちを

• 編集

21:52:17, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 672

詩の歳時記ー190

七夕の竹青天を乱し伐る 原裕

鬱蒼とした藪　星祭りの竹を伐る
倒された一本の竹が
青天を乱しながら
どうと地上に身を投げる
わずかに星の欠片を纏って

• 編集

2008/07/04

16:33:57, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 750

詩の歳時記ー189

幾度か同じ蜘蛛ゐる夜は淋し　　本田あふひ

昨夜窓辺にいた蜘蛛は
今夜はキッチンの天井の暗がりにいる
この夏の同居者となるのか
かそけき足音
手を止めて聴いていた

1 コメント • 編集

2008/07/03

01:37:25, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 684

詩の歳時記ー188

三日発車窓に白き夏の星　　高田昭子

線路の先は透きとおる

そこから拡がる夜空を走る
星の遮断機
月の湖
陽が輝く朝の駅へ

＊　　＊　　＊

わたくしの誕生日記念に

2 コメント • 編集

Original template design by Fran&#65533;ois PLANQUE.